

# 『人道のまち やおつ』を合言葉に ～夢・志を育む人道教育の推進～



八百津町教育委員会

## 1. 元外交官杉原千畝氏のゆかりの地、「八百津町」

1940年、ナチス・ドイツの迫害から逃れてきたユダヤ人たちが、日本の通過ビザを求め、領事館前に押しかけました。日本の命令に従って外交官としてビザを発給しないか、ユダヤ人の命を救うためにビザを発給するか、千畝は悩みに悩み、一つの答えを出しました。自分の良心に従い、2139通に及ぶビザを発給しました。



「一晩中、私は考えた。考えつくした。私のしたことは、外交官として間違ったことだったかもしれない。しかし、私には頼ってきた何千人もの人を見殺しにすることはできなかった。大したことをしたわけではない。当然のことをしただけです。」

ビザを発給することで自分自身の命だけでなく、家族の命にも危険を及ぼすことも考えられる中、千畝氏のとった勇気ある決断と行動は後世に語り継がれるようになりました。

そのような千畝氏の人道行為を取り上げ、八百津町では、『人道のまち やおつ』を合言葉に、千畝氏の温かい人間愛の精神のもと、世界平和の大切さ、命の尊さ、思いやりの心を育むことに力を入れています。

## 2. 杉原千畝氏から繋がった交流事業

千畝氏の功績から、八百津町では『人権教育』を『人道教育』として取り組んでいます。そんな中、千畝氏を通じて数々の交流事業を行っております。

### (1) 杉原ウィーク、杉原千畝記念短歌大会

杉原千畝氏の遺徳を偲び、「いのち・平和」の大切さを再確認するため、杉原氏の命日である7月31日を含んだ一週間を「杉原ウィーク」と称して、平和を願う様々なイベントを開催しています。その中の一つとして、2000年より短歌大会を開催しています。杉原氏の妻、幸子氏が短歌を嗜んでいたことから、短歌を通して平和を伝える事業として取り組んでいます。当短歌大会を通してたくさんの方が杉原千畝氏のことを知り、平和を考え、平和を願うというところを目的とし、現在は町内のみならず、国内、海外からも多くの募集をいただいています。令和5年度は総数2963首のもの応募がありました。

### (2) 八百津町児童生徒会サミット

町内の4つの小学校と2つの中学校の代表者が参加する、「児童生徒会サミット」を開催しています。第1回のサミットで「人道の町 八百津から いじめをなくす撲滅宣言」が提言され、毎年各学校での取り組みが交流されています。命を大切にし、人の痛みがわかる学校づくり、いじめのない学校づくりを目指して実施しております。近年はオンラインによる会議を実施しております。



児童生徒会サミットの様子

### (3) 八百津町・早稲田大学文化交流事業

杉原千畝氏の母校である早稲田大学とは長年にわたり交流事業を実施しております。令和5年度は、男声合唱団の「早稲田大学グリークラブ」をお招きし、中学生との合唱交流を実施しました。コロナ禍の影響で、本格的な合唱に触れることができなかった中学生にとって、早稲田大学の学生との交流はとても刺激的なものとなりました。また、中学生のみならず、町民に向けたものとして、「ワセダヒューマニティコンサート」を開催いたしました。会場には八百津町のみならず、県外からも来られ、迫力ある合唱に魅了されていました。本事業を通じて、生徒のみならず町民とも文化的なつながりを大切にしております。



ワセダヒューマニティコンサートの様子

### (4) リトアニア・カウナス市との交流事業

千畝氏がビザを発給した地、リトアニアのカウナス市との交流をしています。令和5年度は、町内にある4つの保育園が協力し、日本とリトアニアの保育園や幼稚園の行事や文化について、動画にまとめ鑑賞し合っています。お互いの国について興味や関心をもち、お互いの良さを認め合う活動を目指しています。

また、小中学校の取り組みとして、「ブリッジプロジェクト」を行っております。日本とリトアニアの子どもたちの「言葉のいらない心の交流」を図ることを目的として、アートプロジェクトを実施しました。「小さな友情の架け橋」をテーマに、橋の半分を八百津町の子どもたちが画用紙に描き、リトアニアに送ります。残りの半分をリトアニアの子どもたちが描き一つの橋の友情の架け橋が完成します。12月に約120点の作品を送りました。リトアニアの子どもたちとの共同作品がどう仕上がるか楽しみです。



八百津町の子どもたちが描いた橋

## 3. 『人道精神』が実を結び、生まれた合唱曲『心のピース』

児童生徒の『人道精神』を育んできたことで、八百津町の宝が一つ増えました。令和3年度の杉原千畝記念短歌大会において、八百津中の生徒が詠んだ短歌が大賞を受賞しました。

「平和とは パズルのように チグハグだ 一瞬にして 世界が変わる」

この作品を基にして、八百津中と八百津東部中の生徒が「人道の歌」の作曲に挑みました。生徒たちがタブレット端末の鍵盤などを使ってメロディーを考えました。作曲した生徒は「平和への思いを込めて力強いメロディーにしたい。」など、自分たちの曲に心を込めて作成していました。その後、岐阜大学教育学部の西尾洋准教授が編曲し、合唱曲『心のピース』が完成しました。

現在、この合唱曲は八百津町内のすべての学校で歌われています。この曲を歌うことで、八百津町の子どもたちが、八百津を愛し、八百津を大切にできる、ふるさと愛する心や、人道精神を高めてくれたらよいと願っています。

今後も、「人道のまち やおつ」として人道教育を進めるべく、充実した日常、様々な体験事業を展開していきたいです。